

# 2024(令和6)年度 大阪府内地域連携プラットフォーム 事業自己評価

※「会員大学」は大学コンソーシアム大阪会員大学を指す。

## 課題1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

| 取組名              | 活動指標  | 実績   | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|------------------|---|--|-------------|---|
| 取組1<br>高大連携フォーラム | 開催回数: 1回以上/各年<br>※数値目標<br>・活用割合: 会員大学数の60%以上の参加大学数/各年<br>・参加者比率: 大学と高校からの参加者数が同程度/計画期間内 | 10/8開催<br>テーマ:「高大連携によるキャリア教育・再考～高大連携で育む“未来を生き抜く力”とは～」<br>・活用割合:<br>21/42校(50.0%)<br>・参加者比率:<br>大: 75.0%(45人)<br>高: 25.0%(15人)<br>計60人<br>(その他を含むと計69人)   | A           | 今回の開催にあたり、開催方法を見直し、対面とオンラインのハイブリッド形式で実施した。数値目標である会員大学の活用割合60%以上には達しなかったものの、過去2年の活用割合が20～50%に留まっていたことを考慮すると、会員外を含む多くの大学から関心を集め、一定の成果を収めたといえる。今後は、会員大学におけるフォーラム参加の意義をより明確にし、参加促進につなげることが課題となる。また、今年度のテーマが大学側の関心を引き、大学関係者の参加割合が高くなる結果となった。目標としていた「大学と高校の参加者数が同程度」には至らなかったものの、その差は徐々に縮まっている。今後はさらに高校と大学のバランスの取れた参加比率の実現を目指したい。そのために、テーマ設定や広報活動の見直しを進め、より多様な関係者が参画しやすいフォーラムの運営に努めていく。      |
| 取組2<br>会員大学の情報発信 | 実施回数: 1～2回/各年<br>※数値目標:<br>・活用割合: 会員大学数の80%以上の大学数/各年<br>・ホームページの該当ページの閲覧数: 倍増/計画期間内     | 4回<br>(共通大学案内ブックレット、オープンキャンパス情報、学びWEBフェア、高校生応援プロジェクト)<br>・活用割合:<br>100%(42/42校)<br>・ページ閲覧数 4,341回<br>(2024年4月1日～2025年2月27日まで)<br>＜その他の取組＞<br>・大阪府内の高等学校における大学連携状況と進路指導に関するニーズ調査の実施(6月下旬～8月下旬)<br>回答校数 42校/対象243校 | S           | 今年度の実績として、共通大学案内ブックレットの作成、オープンキャンパス情報の提供、学びWEBフェアの開催、高校生応援プロジェクトの実施など、年間4回にわたる情報発信活動を展開した。さらに、大阪府内の高等学校を対象に、大学連携状況と進路指導に関するニーズ調査を実施した。回答率は17.3%と課題が残るものの、大学と高校の連携強化に向けた基礎データを収集できたことは、大きな成果といえる。今後、このデータの有効活用が期待される。本事業は、数値目標を達成または上回る成果を収め、特に活用割合においては会員大学全校の参加を得ることができた。一方で、ホームページの閲覧数についてはさらなる向上の余地があり、今後はコンテンツの充実や発信方法の工夫が求められる。また、高校側のニーズ調査の結果を踏まえ、大学との情報共有や支援施策の強化を検討していく必要がある。 |

## 課題2 単位互換プログラムのさらなる充実

| 取組名           | 活動指標  | 実績  | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|---------------|---|---|-------------|---|
| 取組1<br>単位互換事業 | 実施回数:1回/各年<br><br>※数値目標:<br>学生送り出し校数:<br>包括協定校の60%以上の大学数/各年 | (取組1の活動実績)<br><b>【コンソ大阪 単位互換事業の実績】</b><br>1回実施<br>・学生送り出し校数:<br>60.0%(24/40校)<br><br>科目数:計458科目<br>出願者数:計1,098人<br><br><b>【広域単位互換事業の実績】</b><br>1回実施<br>提供科目数:3科目<br>送り出し学生数:2科目3人<br>受け入れ学生数:3科目42人 | S           | <b>【コンソ大阪 単位互換事業】</b><br>今年度は、数値目標に掲げた「学生送り出し校数:包括協定校の60%以上」を達成し、24校(40校中、60.0%)からの学生の送り出しを実現した。特に、センター科目の開講数を拡充(17科目)し、オンキャンパス科目数も前年の416科目から441科目へと増加したことで、学生に幅広い学びの機会を提供できた点は評価できる。また、出願者数の増加(前年比103.2%)は、本制度の認知度向上や各大学の積極的な活用の成果と考えられる。一方で、オンキャンパス科目の出願校数が24校から21校へ減少(前年比87.5%)した点は、今後の改善が求められる。大学間連携の更なる促進と、参加校の増加に向けた取り組みが必要である。<br><br>また、会員大学の多様なニーズに対応するため、今年度、「大阪・関西万博やSDGs」をテーマとしたセンター科目を新設し、現代社会において重要なテーマを扱ったことは、学生の社会への意識や関心を高める上で非常に有効である。また、広域単位互換制度を活用し、様々な地域や大学の学生にオンラインで学びの機会を提供したことは、教育機会の均等化にも貢献している。<br><br><b>【広域単位互換事業】</b><br>広域単位互換制度については、新たなネットワークの形成により、他地域との単位互換が可能となった。今年度は本制度を活用し、大学コンソーシアム大阪から3科目を提供し、42人の学生を受け入れた。一方で、送り出し学生数は2科目3人に留まり、制度の活用促進が課題として残った。次年度は、大学間の情報共有や周知活動を強化し、送り出しの増加を図る必要がある。 |

### 課題3 キャリア教育プログラムの充実と支援体制の強化

| 取組名   | 活動指標   | 実績   | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|---|--|--|-------------|---|
| 取組1<br>就業体験型プログラム   | 実施回数:1回/各年<br>※数値目標<br>・学生送り出し大学数:会員大学数の60%以上の参加大学数/各年<br>・参加学生数:150人以上/各年<br>・受入企業数:100社以上/各年 | (取組1の活動実績)<br>1回実施<br><br>・学生送出校数:<br>38.1%(16/42校)<br><br>・参加学生数(実習者数):142人<br><br>・受入企業数(エントリー数):103件  | A           | 今年度の実習者数は前年と同水準で推移した。一方、企業におけるエントリー数に対する送り出し数の割合は、60.2%(昨年度は59.0%)とわずかながら改善が見られた。また、面接および事前・事後研修は、会員大学の連携により適切に実施された。<br><br>一方、数値目標である参加大学数(60%)に対して、今年度の参加大学数は38.1%であり、目標には達していない点は改善の余地がある。今後、参加大学数を増やすためには、大学へのアプローチ方法を見直し、本事業の積極的な活用を呼びかける工夫が必要である。    |
| 取組2<br>プロジェクト型プログラム   | プログラム本数:2件以上/各年<br>※数値目標:<br>・学生送り出し大学数:会員大学数の25%以上の参加大学数/各年<br>・参加学生数:30人以上/各年                | (取組2の活動実績)<br>※事業見直しに伴い、実施なし   | 評価<br>なし    | 今年度は現中期計画の中間点検を行い、本事業の在り方について見直しを行った。コロナ禍以降、参加者数の減少が続いていることを受け、今後は低学年向けプログラム(取組3:オンラインプログラム)に重点を置く方針とし、内容に応じてプロジェクト型に発展させることが望ましい場合には、都度対応する形で2025年度以降、方針転換を行うこととする。  |
| 取組3<br>低年次学生対象プログラム<br>(旧 オンラインプログラム、<br>事業名称:就活クエストin OSAKA) | 実施回数:3回以上/各年<br>※数値目標:<br>・学生送り出し大学数:会員大学数の25%以上の参加大学数/各年<br>・参加学生数:60人以上/各年                   | (取組3の活動実績)<br>2回実施<br>第1回:2025年2月15日開催<br>第2回:2025年3月3日開催<br><br>・学生送出校数:<br>第1回:7.1%(3/42校)※<br>第2回:16.7%(7/42校)※<br>※会員外1大学1人は除く<br><br>・参加学生数:<br>第1回:7人※<br>第2回:11人※<br>※会員外1大学1人は除く | A           | 現中期計画の見直しを踏まえ、今年度は、学生と年齢の近い先輩社会人からキャリア選択に関する体験談や仕事の実情について学ぶプログラム、商店街を実際に歩いて見学し、地域創生・まちづくりの現場に触れるPBLを意識したプログラムの計2回を実施した。参加学生数は数値目標には達していないものの、実践的な学びの機会を提供できた点は評価に値する。<br>今後は、多様なテーマのプログラムを検討しつつ、広報活動や参加大学への働きかけを強化し、さらなる学生の参加促進に向けた工夫が求められる。                |
| 取組4<br>キャリア支援事業   | 開催回数:1回以上/各年<br>※数値目標:<br>・参加大学数:会員大学数の25%以上の参加大学数/各年  | (取組4の活動実績)<br>2回開催<br>大学等教職員向けセミナー<br>※大阪府との共催<br>第1回:2024年9月11日開催<br>第2回:2025年2月18日開催<br><br>・参加大学数<br>第1回:47.6%(20/42校)<br>第2回:19.0%(8/42校)  | S           | 大阪府と共催し、大学等教職員向けセミナーを昨年に引き続き2回実施した。大学の共通課題である発達障がい傾向の学生や就職困難性のある学生の支援方法に関する理解を深める機会を継続的に提供できた点は評価に値する。また、第2回では大学等と企業との交流をテーマに据え、産学連携の強化に向けた場を提供できたことも高く評価できる。<br>また、現在、大阪府等と「就職困難性のある学生の就労支援に係る産官学連携プラットフォーム」の設置に向けた協議を進めており、次年度以降、支援体制の構築に向けた実質的な展開が期待される。 |

#### 課題4 国際交流の活性化

| 取組名                           | 活動指標  | 実績   | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|-------------------------------|---|--|-------------|---|
| 取組1<br>他国・他地域との交流事業           | 交流事業数: 1事業/各年(再開以降)<br>※数値目標:<br>・交流事業数: 延べ5事業/計画期間   | ・外国人留学生向けの<br>特設ページの設置(新規)   | C           | コロナ禍により他国・他地域との交流事業が進展しなかったことを受け、今年度は新たな取組として外国人留学生向けの特設ページを設置した。会員大学の外国人留学生獲得ニーズに対応するため、視点を変えた取組を確実に進められた点は評価できる。<br>一方で、進展が見られない台湾高等教育国際合作基金会との交流が継続的に進んでいないことは課題として挙げられる。今後は台湾以外の他国・他地域との交流促進も視野に入れ、取り組みを進めていきたい。  |
| 取組2<br>グローバル人材育成事業            | ・講座開催回数: 2回以上/各年<br>・国際交流イベント開催回数: 1回以上/各年<br>※数値目標:<br>・講座受講者数: 延べ300人以上/計画期間内   | 【グローバル人材育成講座】<br>1回開催(2024年9月28日開催)<br><br>・受講者数: 7大学9人<br>(うち留学生3人)<br><br>【国流イベント】<br>1回開催(2025年3月13日開催)<br><br>「大阪まちあるきツアー」<br>・企画学生数 11人(うち留学生2人)<br>・参加者数 計28人<br><内訳><br>国内学生 6大学12人<br>外国人留学生 10大学(校)16人<br>(うち会員外4大学(校)4人) | B           | 【グローバル人材育成講座】<br>グローバル人材育成を主眼にサステナビリティや異文化理解を促進する講座を行っていたが、現在の集客状況に鑑みて、計画見直しを行った。<br>今年度は講座が1回の開催に留まったが、参加者数は少数ながら多様な学びの機会が提供された点は評価できる。<br>一方で、受講者数の目標達成にはさらに工夫が必要と考えられる。今後、受講者数の増加を目指すために、広報活動の強化や学生ニーズに応じたテーマ設定、また参加者のモチベーションを高める施策を検討することが求められる。<br><br>【国流イベント】<br>大阪まちあるきツアーは、地域理解を深め、異文化交流を促進する貴重な機会を学生自らが創出する点において、有意義な取組として継続できている。参加者数は定員を上回るなど、一定の成果を上げていることも評価できる。しかし、参加者内訳では国内学生の参加が少なかったことが課題として挙げられる。交流の観点から見ると、訪問地やテーマ設定に工夫の余地があり、今後はより多くの国内学生を引きつけるための改善が必要と考えられる。 |
| 取組3<br>学生英語プレゼンテーション<br>コンテスト | 開催回数: 1回/各年<br><br>※数値目標:<br>・会員大学数の50%以上の参加大学数(発表大学、運営メンバーおよび当日の来場者)/各年<br>※2024年度より目標改定<br><br>・参加者数: 英語圏以外の留学生の参加増/計画期間内 | 1回開催(2024年12月1日開催)<br><br>出場チーム数<br>・8大学10チーム<br><br>参加者数<br>・発表者 8大学24人(うち留学生5人)<br>・運営学生 3大学9人(うち留学生1人)<br>・来場者10大学23人<br>・その他2人   | A           | 本コンテストは開始から6年目を迎え、学生にとって英語を使ったプレゼンテーションスキルを学び、自らの考えを英語で発信する重要な機会として継続的に実施されている。また、今年度は出場者に対して出場要件を明確化するなどの改善を行い、より公平な運営が実現された。<br>特に、万博のレガシーをテーマに設定したことは、当コンソーシアムが主催するイベントを通じて社会的意識を高めるうえで意義があり、評価に値する。<br>一方、改善点として、参加大学数が数値目標に達していない点が挙げられ、広報の見直しやより多くの大学の参加促進に繋がる工夫が必要である。   |

課題5 地域連携の促進による大阪・関西の活性化

| 取組名  | 活動指標  | 実績  | 評価<br>(5段階) | 評価内容   |
|--|---|---|-------------|--|
| 取組1<br>地域連携 学生フォーラム  | 開催回数:1回/各年<br>※数値目標:<br>・会員大学数の50%以上の参加大学数/計画期間内<br>(発表大学、運営メンバー、当日の来場者等)<br><b>*2023年度より目標改定</b><br><br>・参加する行政・事業所数:15団体以上/計画期間内        | (取組1の活動実績)<br>1回開催(2024年10月20日開催)<br><br>参加者数 計65人<br><内訳(抜粋)><br>・発表大学・発表者数<br>6/42校(14.3%)21人、6事業の発表<br>・運営学生<br>6/42校(14.3%)・9人<br>・その他参加者(コンソ関係者含む)<br>13/42校(31.0%)校・35人 | A           | 今回は、学生運営メンバーの提案に基づき、従来の口頭発表からパネル発表へと形式を変更して開催した。当日は6大学6事業の発表が行われ、各大学の特色を生かした地域連携についての事例共有や意見交換の場を提供できた点は高く評価できる。<br>また、学生運営メンバーによる交流企画として、万博協会を招いたワークショップを実施するなど、学生主体の運営がより強化された点も評価に値する。<br>一方で、フォーラムの参加者数は関係者を含め65人に留まり、目標としていた会員大学の50%以上の参加には達しなかった。この点は今後の課題であり、広報の強化や会員大学の参加促進に向けた工夫が求められる。 |
| 取組2<br>地域連携 情報交換会  | 開催回数:年1回以上/各年<br>※数値目標:<br>・参加大学数:会員大学数の50%以上の参加大学数/計画期間内<br>・参加する行政・事業所数:10団体以上/計画期間内  | (取組2の活動実績)<br>1回開催(2024年11月29日開催)<br><br>参加者数 計13人<br><内訳><br>・会員大学 7/42校(9.5%)8人<br>・自治体 2団体3人<br>・その他 2団体2人   | A           | 今年度は、茨木市の文化・子育て複合施設「おにくる」を事例に、産官学民の協働による新しいまちづくりに関する先進事例の共有と参加者による密な意見交換が実施できた点は、本サロンの趣旨に合致しており、評価に値する。<br>一方で、参加者数は13人と少なく、会員大学の50%以上の参加という目標は未達であった。大学と行政・事業者のコラボレーション促進を目指すためには、より多くの関係者が参加しやすい企画や開催方法、また周知方法の見直しが必要であり、次回に向けての改善点として考慮すべきものである。  |
| 取組3<br>学生ボランティア事業<br>(ACTの取組支援)  | 既存事業やその他事業へ学生ボランティア参画:<br>2事業以上/各年<br>※数値目標:学生の参加数:各部会事業への企画・運営に関わった学生数延べ200人/計画期間内<br><br><b>※上記は、当コンソーシアム全体における学生ボランティア事業に関する目標を示す。</b> | (取組3の活動実績)<br>ACT主催イベント:3回実施<br>外部イベント:1回参加<br><br>参加学生数<br>8/42校(19.0%)15人<br>(2025年2月現在)  | S           | 5月の新歓イベント、12月の学生交流会、3月のキャンプファイヤー交流会の実施など、年間を通して活発な活動が行われた点は高く評価できる。また9月には全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムにおいて、ワールドカフェ形式のセッションを企画・運営するなど、外部発信の機会も創出できた。<br>ACTの参加学生数は15人と安定しているが、今後の持続的な活動のために新規メンバーの確保と継続的な支援体制の強化が求められる。  |
| ※その他の取組<br>大阪市立野田中学校<br>キャリア教育支援業務(受託)<br><br>(南大阪地域大学コンソーシアムからの継承事業として、2024年度は試行的に実施) |   | (その他の取組の活動実績)<br>2024年10月~2025年3月の<br>約6か月にわたり事業支援を行う。<br>(委託業務)<br><br>授業サポーター 参加学生数<br>9/42校(21.4%)15人参加  | S           | 南大阪地域大学コンソーシアムから継承した産官学連携によるキャリア教育支援事業を、今年度は試行的に実施した。また当コンソーシアム独自の取組として、会員大学から学生授業サポーターを募集し、計4回にわたり15人を派遣した。また、協力企業の調整において、関西キャリア教育支援協議会(関西生産性本部が主体)との新たな連携を構築することができた。<br>今後は、支援対象を現在の1校からより多くの学校へと拡大することが理想であり、大阪市教育委員会とも連携し、さらなる地域貢献活動の発展が期待される。  |

## 課題6 研修による大学教職員の資質向上とネットワーク強化

| 取組名                                     | 活動指標   | 実績  | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|---|--|---|-------------|---|
| 取組1<br>各種研修                             | 実施回数: 2回以上/各年<br>※数値目標:<br>・教職員送り出し大学数: 会員大学数の25%以上の参加大学数/各年 | <p>(取組1の活動実績)<br/>5回実施<br/>・初任者SD研修 計3回<br/>・ID研修<br/>・管理職者SD研修</p> <p>&lt;初任者SD研修&gt;<br/>教職員送出大学・参加者数<br/>第1回: 7/42校 (16.7%) 17人<br/>(他、会員外1校1人)<br/>第2回: 15/42校 (35.7%) 26人<br/>第3回: 13/42校 (31.0%) 28人<br/>(他、会員外1校1人)</p> <p>&lt;ID 研修&gt;<br/>オンデマンド配信 (HPに常設)<br/>開設以降のアクセス数累計<br/>492件 (2月27日時点)</p> <p>&lt;管理職者SD研修&gt;<br/>教職員送出大学・参加者数<br/>11/42 校 (26.2%) 14人<br/>(他、会員外1校1人)</p> | S           | <p>【初任者SD研修】<br/>会員大学の連携により、当コンソーシアムの共通研修として、継続して実施できていることは評価に値する。一方で、本研修の意義に基づき、会員大学の参加率をより向上させるための施策(広報強化、参加促進の工夫)が求められる。</p> <p>【インストラクショナルデザイン研修 (ID研修)】<br/>オンデマンドによる会員大学職員への継続的な学習機会の提供は有意義であり、アクセス数から見て、一定の関心が示されていると言える。現在、受講者の具体的な活用状況が不明であるため、受講者のフィードバック収集や利用促進の工夫が必要である。</p> <p>【管理職者SD研修】<br/>従来の各種研修に加え、本研修が会員大学職員による2年間の共同研究の成果として、今年度から提供プログラムの一つに位置付けられたことは高く評価できる。今後、本研修の継続的な開催に加えて、受講者の満足度や研修後の実践での活用に関するデータを収集し、研修内容のさらなる充実を図ることが期待される。</p> |
| 取組2<br>サロン・ド・<br>大学コンソーシアム大阪<br>(SD勉強会) | 開催回数: 3回以上/各年<br>※数値目標:<br>・会員大学の参加率: 会員大学数の60%以上の参加大学数/各年   | <p>(取組2の活動実績)<br/>3回開催<br/>参加大学・参加者数<br/>第1回: 9/42 校 (21.4%) 14人<br/>第2回: 15/42校 (35.7%) 27人<br/>第3回: 10/42校 (23.8%) 11人<br/>(他、会員外1校1人)</p>  | A           | <p>数値目標である開催回数(3回)を達成し、メンタルヘルス、生成AI、LGBTQなど大学教職員のニーズに応じた幅広いテーマを取り上げた点は高く評価できる。参加者同士のネットワーク構築を促進する目的から、今年度はすべての回で対面開催としたが、会員大学の参加率は60%に達していない。今後、開催時期の見直しやオンライン併用の検討など、さらなる参加促進の工夫が求められる。</p>  |

## 課題7 大阪の様々な課題に対応した取り組みの拡充

| 取組名                     | 活動指標   | 実績  | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|-------------------------|--|---|-------------|---|
| 取組1<br>学生ボランティアの拡充      | 既存事業やその他事業へ学生ボランティア参加:2事業以上/各年<br><br>※数値目標:<br>・学生の参加数:各部会事業への企画・運営に関わった学生数<br>延べ200人/計画期間内 | (取組1の活動実績)<br>6事業<br>・地域連携学生フォーラム<br>・学生英語プレゼンコンテスト<br>・国際交流イベント<br>(大阪のまちあるき)<br>・ACT学生座談会(計3回)<br><br>・学生参加数:<br>35人                            | S           | 学生が主体的に企画・運営に関わる様々な機会を継続的に提供している点は、学生の成長を促し、地域社会への貢献意識を高める上で重要であり、評価できる。<br>特にACTの取組において、年間を通じて「学生交流」をテーマに学生が主体的に企画・実施するスキームはこの3年間にわたって構築できたが、今後の課題として、参加学生数の目標達成度や活動の成果に関する定量的なデータを用い、今後の活動の量的・質的拡大に向けた具体的な戦略が求められる。   |
| 取組2<br>連携調査・研究の実施       | 連携調査・研究テーマ数 2テーマ以上/各年<br><br>※数値目標:<br>・連携調査・研究実施数 延べ15件/計画期間内                               | (取組2の活動実績)<br>計3テーマ、実施件数 計3件<br><br>調査(2テーマ):<br>・新入生薬物意識調査<br>・大阪府内の高等学校における大学連携状況と進路指導に関するニーズ調査<br><br>研究(1テーマ):<br>・中期計画推進に係る提案型研究事業<br>(1件採択) | A           | 新入生対象薬物意識調査や大阪府内の高校と大学の連携強化に向けたニーズ調査など、具体的なテーマに取り組んでいる点は評価できる。<br>しかし、いずれの調査参加校数や回答数の伸び悩みが見られ、実施方法の見直しが必要である。<br><br>中期計画推進に係る提案型研究事業については、応募数、選定数ともに1件に留まっており、過去の実施状況を踏まえても、事業の在り方を検討する段階にある。今後、研究テーマの多様化や研究成果の社会実装に向けた取り組みが求められる。   |
| 取組3<br>地域課題に対応した取り組みの推進 | 実施事業数 1事業以上/各年<br><br>※数値目標:<br>・実施事業数 延べ5事業/計画期間内   | 5事業<br>・大阪PF活動報告会<br>・公開講座(計13回)<br>・SD・FD研修(計3回)<br>・社会人向けプログラムに関するポータルサイトによる情報発信<br>・社会人向けプログラムの実施<br>(MOS資格取得講座)                               | S           | 大学コンソーシアム大阪が地域社会のニーズに応えるために、地域連携プラットフォームを通じてFD・SD研修、公開講座、リカレント教育プログラムなどの多岐にわたる取り組みが着実に実施できている。<br>特に、社会人向けのリカレント教育プログラムは、社会の変化に対応するための学び直しを支援する上で重要である。<br>今後、これらのプログラムの成果を具体的に示す指標を定めながら、定量的な評価が求められる。   |
| 取組4<br>大阪・関西万博との連携      | 実施事業数:2事業以上/各年<br><br>※数値目標:<br>・実施事業数:延べ10事業/計画期間内  | 4事業<br>・万博・SDGsをテーマとした単位互換科目(センター科目)の提供<br>・学生英語プレゼンテーションコンテスト<br>・グローバル人材育成講座<br>・地域連携学生フォーラム<br><br>※別途、万博協会との推進連携協定を締結。                        | A           | 大阪・関西万博に向けた学生向け企画の実施は、若者の万博への関心を高め、地域活性化に貢献する上で重要である。学生英語プレゼンテーションコンテストや地域連携学生フォーラムなど、具体的な企画が実施されていることは評価できる。<br><br>さらに、今年度は万博・SDGsをテーマとした単位互換科目(センター科目)が新設され、広域単位互換科目としても提供されるなど、地域を越えた積極的な取り組みが進められていることも高く評価できる。<br><br>以上のとおり、大阪・関西万博の開催が間近に迫る中、2023年8月に公益社団法人2025年日本国際博覧会協会と大学コンソーシアム大阪との間で締結された連携推進に関する協定に基づき、若者(大学生)や大学の万博に対する機運醸成に向けた各種取り組みが着実に実施されており、万博のレガシーを継承する新たな取組にも期待したい。 |

課題8 その他

| 取組名 | 活動指標 | 実績  | 評価<br>(5段階) | 評価内容  |
|-----|------|---|-------------|---|
|     |      | <p>&lt;日本インターンシップ学会との連携取組&gt;<br/>                     ・関西支部との共催による研究会の開催（2024年12月）</p> | A           | <p>今回のテーマである「強みを活かしたインターンシップの取り組み」は、現代のインターンシップにおいて非常に重要であり、大学コンソーシアムひょうご神戸、京都先端科学大学という異なる機関からの事例発表を通じて、多様な視点を提供し、参加者の学びの深化に寄与できたことは評価に値する。</p> |